

# モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



クライミングでチーム・ビルディング。大騒ぎのソフィテル・アンコールホテルのマネージャーの卵くんたち



ギレさんの子供にアドバイスするスムロン

## チーム・ビルディング

7月も過ぎるとどしゃぶりの日が増え雨季がピークを迎える。ウォールまでのアプローチャもぐじゃぐじゃで、訪れるビジターもまれだ。こういう日でもビジターでにぎわうようになれば、運営も少しは楽になるのだ

が。そんな切ないある日、大昔のR・レッドフォードみたいにハ

ンサムなスイス人のギレさんから電話がきた。しかし、自称イタリア、フランス、ドイツの訛り入り英語なので何を言っているのか、さっぱりわからない。適当に

ア〜ハとか返していたら、伝わっていないのが分かったらしく、すぐに日本人の女性マネージャーと変わった。ギレさんは、国際級五つ星ホテル、ソフィテル・アンコールのジェネラル・マネージャーで、ときどき4人

## 目指せ、アンコールクライマー誕生!!

の小さな子供にクライミングをやらせにウォールにくる。この子供たちがわんぱくで、僕は手を焼いていた。ハーネスを付けるとすぐにロープにぶらさがってターザンになる。しばらくジタバタやって壁の中間で動けなくなる。黙ってみていると、ギレさんが僕らにアドバイスを要求する。スムロンに振ると彼の一言が効いたのか、壁の中央でベソをかいていた男の子は問題を解決。なんとか上へ抜けた。そんな状況を見ていたギレさんが、見習いマネージャーのチーム・ビルディング(※)をクライミングでやってみたいと思いついたらしい。クライミングがパートナー(ビルダー)との連携で成り立つスポーツである点に着目したので。しかし、クライミングはチームスポーツとはいえないので、ちよつと違う気もするが、利用者が多くなるのはこちらにとつて好都合。早速翌日、価格交渉をしにソフィテルに向いた。ハイローストなおいしい

ごちそうになりながら話ははずむ。雨季のウィーク・デイに割と大口の利用料が舞い込むことになりスムロンもごきげんだ。当日、20人のマネージャーのタマゴくんを前に、スムロンの解説で僕がゆっくり登ってみせ。はじめのうちは講習らしい状況だったが、さあ、みんな登ってくださいっていう時点をすぎると、誰もが声援過剰で大騒ぎ。チーム内で足を引っ張り合うといった事態にはならなかったと思うけれど、ギレさんの狙いは少し外れた気がする。でも、マネージャーのタマゴくんたちにはよいレクレーションにはなつたかもしれない。ギレさんへの印象もそれほど悪くはなかったようで、ソフィテルで開催されるイベントのたびに彼から豪華な招待状が送られてくるようになった。ただし正装の必要ないイベントもあって、まだ行ったこともないのに、案内状が送られてくるたびに僕は思わず萎縮してしまふ。

(続く)